様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００３５９

研究課題名（和文）『安元御賀記』を中心とした院政期御賀の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of the Insei Period Megumi with a Focus on "Angen Ongaki"

研究代表者
浜畑　圭吾（HAMAHATA, KEIGO）

佛教大学・文学部・准教授

研究者番号：１０６４６５４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、まず定家系伝本の調査と分類を行った。未調査であったもの、新出の伝本も含めて調査し、その系統分類を通して本書の一側面を明らかにした。次に、本研究採択以前から継続して行っていた『安元御賀記』の注釈作業を進めた。その結果、当初の予定通り完了した。また、雅楽会の開催、院政期御賀に関するデータベースの作成など、成果を広く一般にも還元した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来、『安元御賀記』は類従本で広く読まれていたと考えられていたが、定家本系統も一定数書写されており、享受されていたことが明らかになった。そしてそれは類従本系統と定家本系統の性格の相違を検討する材料にもなった。また、雅楽会の開催、院政期御賀のデータベースの作成は、「雅楽」や「御賀」が広く認識されるきっかけとなった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we first investigated and classified the texts of the Teika lineage. I investigated the uninvestigated ones and newly published manuscripts, and clarified one aspect of this book through its systematic classification. Next, I proceeded with the annotation work of "Angen Ongaki", which I had been doing since before the adoption of this research. As a result, the project was completed as originally planned. In addition, he gave back his achievements to the general public, such as holding a gagaku party and creating a database of the Imperial greetings during the Insei period.

研究分野：中世文学

キーワード：安元御賀記　御賀　院政期　雅楽　平家文化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究では、以下の３点を中心に進めた。
　①定家本系伝本の調査と分類
　②『安元御賀記』の注釈作業
　③雅楽会、院政期御賀データベースの作成

　①については、研究開始当初は類従本が広く流布され、定家本系統の検討は進んでいなかった。また、定家本系伝本は、その存在が知られてはいたが、調査は進んでいなかった。
　②については、本文は類従本で読まれる状況で、注釈は公刊されていない。
　③については、御賀の研究はあったが、院政期の特徴を捕らえたものはなく、データベースのようなものは存在しなかった。

２．研究の目的

　①本来の姿である定家本系伝本の実態を解明し、どのような経緯で書写されていたのかということ。
　②類従本ではなく定家本を中心として、本文に注釈を施し、『安元御賀記』の解読を進めること。
　③馴染みがあるとは言いにくい雅楽の演奏の実態を広く一般に公開し、認知してもらうこと。またデータベースを作成することで、院政期の特徴を明らかにすること。

３．研究の方法

　①現在所在が明らかになっている伝本の書誌調査を進め、分類した。
　②定期的に開催した報告会で、代表者と研究分担者が、それぞれの担当範囲の注釈を報告、検討を加えた。
　③安元から遡って、仁平、康和の御賀だけでなく、天永などの院政期（白河から後白河まで）の御賀の記述を網羅的にデータ入力し、検索が出来るようにした。

４．研究成果

　①については、未調査であったもの、新出の伝本も含めて調査し、その系統分類を通して本書の一側面を明らかにした。従来、類従本系統で広く認知されていたと思われていた『安元御賀記』であるが、定家本系統も書写されており、その書写過程にも注目して取り組んだ。その成果については学会において発表したが（発表２）、近々に成果をまとめるつもりである。
　②は、本研究採択以前から継続して行っていたが、『安元御賀記』の注釈作業を進め、当初の予定通り完了した。その過程で多くの問題点が明らかとなり、成果を公表した（論文１、発表１、発表３）。注釈作業の成果は近く公刊する予定である。

③については、まず雅楽会を開催し、講演２本と実演会を行った。本研究の取り組みを広く一般に認知してもらうため、研究代表である浜畑がその趣旨を説明し、本研究に関わる内容の講演を依頼した。また、本研究の対象のひとつである雅楽の実態を認知してもらうため、現代の楽人を招聘し、『安元御賀記』に実際に演奏された曲目を中心に実演した（講演会）。

また、本研究が院政期の御賀であり、院政期ならではの特徴が見えるため、その他の院政期御賀に関するデータベースを作成した。成果は近々に公開し、広く一般にも還元するつもりである。

本研究によって、『安元御賀記』の研究は深化し、一般への認知も進んだと思われる。また調査や注釈作業を通していくつかの重要な問題点も確認されたため、今後も発展的に進めていく予定である。

※本文中の（）は以下の成果を指す。

【研究成果】

論文１：北山円正「安元御賀の蹴鞠と藤原頼輔」（『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』2020）

発表１：浜畑圭吾「安元御賀の構成―三月五日の位置づけをめぐって―」（文藝談話会第 65 回例会発表 2020・12）

発表２：浜畑圭吾「定家本系『安元御賀記』の伝本分類と近世有識家の受容」（関西軍記物語研究会第 106 回例会発表　2023・4）

発表３：鈴木徳男「安元御賀と『源氏物語』」（関西軍記物語研究会第 106 回例会発表　2023・4）

講演会：「平家文化と音楽―賀宴を彩る雅楽の魅力―」（於神戸女子大学三宮キャンパス教育センター５階特別会議室、令和 4 年〔2022〕9 月 11 日〔日〕）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 北山円正	４．巻 第13号
２．論文標題 安元御賀の蹴鞠と藤原頼輔	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神戸女子大学古典芸能研究センター紀要	６．最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 浜畑圭吾
２．発表標題 安元御賀の構成―三月五日の位置づけをめぐって―
３．学会等名 文藝談話会第65回例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 浜畑圭吾
２．発表標題 定家本系『安元御賀記』の伝本分類と近世有識家の受容
３．学会等名 関西軍記物語研究会第106回例会
４．発表年 2023年

１．発表者名 鈴木徳男
２．発表標題 安元御賀と『源氏物語』
３．学会等名 関西軍記物語研究会第106回例会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

令和四年（2022）９月１１日（日）に神戸女子大学三宮キャンパスにおいて、「平家文化と音楽―栄花を彩る雅楽の魅力―」と題して、講演、実演会を行った。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	北山　円正 (KITAYAMA MITUMASA) (30268528)	神戸女子大学・文学部・教授 (34511)	
研究分担者	鈴木　徳男 (SUZUKI NORIO) (80154566)	相愛大学・人文学部・教授 (34421)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	藤井　華子 (FUJII HANAKO)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関